

2024年11月21日

「第24回 貨物鉄道論文賞」について

当社では、環境にやさしい輸送機関である貨物鉄道の発展と利用促進をめざして、貨物鉄道輸送に関する先進的な利用実績や独創的な提案・研究などを顕彰する、貨物鉄道論文賞論文の募集を行ってまいりました。

厳正な審査の結果、下記のとおり、本年の受賞論文を決定いたしましたのでお知らせします。また、その表彰式・懇談会を、2024年12月5日に開催します。

賞	題名 ご所属・氏名（敬称略）
最優秀賞	陸海一貫インターモーダル輸送の可能性と社会効果 金沢大学 伊東 尋志 合同会社日本鉄道マーケティング 山田 和昭 海上輸送と鉄道輸送をシームレスに繋ぐ陸海一貫インターモーダル輸送について、道路偏重のインフラ投資から脱却し、オンドックレールへの政策投資の推進など鉄道と港湾をつなぐ戦略投資の必要性を欧米やアジア諸国の豊富な海外事例を踏まえて提言。明快な論旨とロジカルな立論で、非常に説得力がある論文となっている。
優秀賞	サステナブルな未来へ！ 鉄道貨物輸送を活用した 中距離帯での食品大規模輸送への挑戦 ネスレ日本株式会社 田中 健太 環境先進企業として、環境保全とドライバー不足への対応という双方の課題解決を図るべく、貨物駅での側線倉庫の利用といった工夫を重ね、中距離帯（静岡～大阪）での鉄道利用を実現した取り組みをまとめた実践的内容。実務担当者として荷役時間や作業工数など具体的な数値も踏まえて記述されており、貨物鉄道利用の新しいモデルを示した。
奨励賞	カーボンニュートラル輸送への鉄道貨物輸送再構築 ヤマト運輸株式会社 荒川 史生 カーボンニュートラルの視点から、貨物鉄道輸送の具体的な再構築案を提起した内容。ISO14068-1の取得やカーボンニュートラル宣言の発出、積替ステーションの増設ロールボックス単位のオペレーション、新興物流事業者の提言、物流統括管理者（CLO）とのコミュニケーション等、多岐にわたる戦略的な提案を行っている。
特別賞	「2024年問題」と鉄道貨物輸送のあるべき姿について 群馬県庁 宮川 祐吾 『今後の鉄道物流のあり方に関する検討会』で示された14の提言に対する筆者の考え方を述べた上で、具体的な提案として「貨物輸送を含む地方鉄道への国庫補助」「在来線改良による首都圏関西間の輸送力増強」「災害時の迂回ルート確保」を提起。道路とのイコールフットイングの必要性、 <u>旧幹線を含む地方</u> の鉄道の独立採算制の限界など、的確な指摘がなされている。

※下線部につきまして、記載内容が誤っており、下記の通り、訂正を行っております（2024年11月22日）
誤）鉄道貨物輸送の推進と今後 → 正）カーボンニュートラル輸送への鉄道貨物輸送再構築
誤）～地方公共団体～ → 正）～旧幹線を含む地方の鉄道～